



6

ヤエノジョオーの08年産

父:ゴールドアリュール 母の父:Cure the Blues



ヤエノジョオーの08年産

2008年2月16日生

牡 栗毛

生産:ビクトリーホースランチ

栗東・藤岡健一厩舎予定

Gold Allure ゴールドアリュール 1999年 栗毛	Sunday Silence サンデーサイレンス 1986年 青鹿毛	Halo ヘイロー	<i>Hail to Reason</i>	Turn-to Nothridchance
			Cosmah	Cosmic Bomb Almahmoud
	Nikiya ニキーヤ 1993年 鹿毛	Wishing Well ウィッシングウェル	Understanding	Promised Land Pretty Ways
			Mountain Flower	Montparnasse Edelweiss
		Nureyev スレイエフ	Northern Dancer	Nearctic Natalma
			Special	Forli Thong
Yaeno Jo O ヤエノジョオー 1990年 栗毛	Cure the Blues キュアザブルース 1978年 鹿毛	Reluctant Guest リラクタントゲスト	Hostage	Nijinsky Entente
			Vaguely Royal	Vaguely Noble Shoshanna
	Links of Gold リンクスオブゴールド 1985年 栗毛	Stop the Music ストップザミュージック	<i>Hail to Reason</i>	Turn-to Nothridchance
		Bebopper	Tom Fool Bebop	
Quick Cure クイックキュアー		Dr. Fager	Rough'n Tumble Aspidistra	
		Speedwell	<i>Bold Ruler</i> Imperatrice	
Linkage リンケージ		Hoist the Flag	Tom Rolfe Wavy Navy	
		Unity Hall	Cyane Rum Bottle Bay	
State Treasure ステイトトレジャー	Secretariat	<i>Bold Ruler</i> Somethingroyal		
	Diomedea	Sea Bird Treasure Chest		

インブリード:Hail to Reason 4×4,Bold Ruler 5×5

FAMILY LINE 母系

母 ヤエノジョオー Yaeno Jo O

7勝,タイムス杯-OP (D1700m),同2着,但馬S (D1400m),清水S (芝1600m),渡島特別 (D1700m),シーサイドS-JPN3 2着,シーサイドオープン-OP 3着,コーラルS-OP 3着。産駒

マイオトメ (98 牝 鹿 *グルームダンサー) 2勝
トーホウジョオー (00 牝 鹿 フサイチコンコルド) 2勝
ゼンノテキーラ (01 牡 栗 *エンドスウィープ) 1勝,東海 (公) 12勝
ツルミベレイザ (02 牝 鹿 *ビルサドスキー) 1勝
トーホウカウンター (03 牝 栗 サクラバクシンオー) 2勝
デザートジョオー (05 牝 栗 *デザートキング) 入着,南関東⑧1勝,⑨
タイキエイワン (07 牝 黒鹿 フサイチコンコルド) 入着,⑨

祖母 *リンクスオブゴールド Links of Gold

米国産,米4勝。産駒

ヤマケイコー:2勝,飛竜特別

リンクスオブタイム:5勝

イーベルリンクス:不出走。産駒

ゲイルワン:1勝,京王杯2歳S-JPN2 4着

曾祖母 ステイトトレジャー State Treasure

米1勝。産駒

ダブル ダイヤモンド Double Diamond:英米4勝,スイス1勝,スイス2000ギニー
エア アンド スペース Air and Space:米6戦。産駒タイムレス トウイスター Timeless Twister:米4勝,Razorback Futurity
ヴェリティ Verity:米4戦。産駒デインジャー クロコダイル Danger Crocodile:米18勝,Troy S,Renaissance
S 3着

四代母 ディオメディア Diomedea

米7勝,マーゲイトH-G3,Bonnie Miss S。産駒

メディア スターゲスト Media Starguest:英7勝,アール オブ セプトンS-G3,ブ
リガディア ジェラードS-G3 2着。種牡馬

*ディオラマ Diorama:米2勝,アルシバアイデアーズS-G2 2着。産駒

モンド:2勝,原町特別

イエス マイ ディア Yes My Dear:不出走。*タイキクレセント (京成杯-JPN3
3着)の母シネマライフ:入着。クイーンオブキネマ (スパーキングLC-JPN3 2着)の母
ダイレクト アンサー Direct Answer:米7勝,Liberty H
ダイナミック リーダー Dynamic Leader:米1勝,英入着,MadridExt. H-L 3
着。種牡馬

母系の解説

ダート重賞でのちのG1ウイナー・タイキシャーロックに先着した母ヤエノジョオー。

母ヤエノジョオーは現在のエルムS (G3)の前身であるシーサイドS (G3)で、のちのG1馬キョウトシチーに肉迫し、やはりのちにG1馬となるタイキシャーロックに先着するなど、トップクラスの実力を誇っていた。ただ、ダートでの走りのイメージが強い一方、芝の準オープン・清水Sを勝ったり、やはり芝の札幌日経オープンで勝ち馬から0.3秒差の4着に好走したりするなど、ダートしか選択肢がないタイプではないこともアピール。もともと母系を遡ると、タイグブライドル、タイキトゥインクルやスーパーミッションなど、芝での活躍馬も目立つファミリーで、多彩な能力が光る。また、兄妹に注目すると、これまで中央で出走した7頭のうち、5頭が勝利を獲得。高いレベルで安定感のある仔出しは何よりも心強い。本馬の姉マイオトメや叔母のリンクスオブタイムも、母として好スタートを切っており、堅実に勝ち上がるタイプが目立つ。

BROODMARE SIRE

母の父 キュアザブルース Cure the Blues

◆競走成績

2〜3歳時,米10戦6勝,ローレル フューチュリティ
G1

◆代表産駒

ルグロリユー (ワシントンDC国際S-G1,ジャパンC-
JPN1),ルクラティフ (伊2000ギニー-G1),ストッ
プ トラフィック (バレーナH-G1),ストーミー ブ
ルース (メイトロンS-G1),ゲイリー ゲイリー (フラワー
ボウルH-G1),*ミュージカルラーク (メイトロンS-G1)

◆母の父として

ケイジャン ビート (父Grand Slam:BCスプリント-
G1),ゴールドデン ミサイル (父A.P.Indy:ビムリコ
スペシャルH-G1),ソル デル ノルテ (父Local Talent:
アウグストブレギーア ナショナル大賞典-G1),ロード
バクシン (父サクラバクシンオー:兵庫チャンピオンシッ
プ-JPN3)

競走馬時代は、仕上りの早さを活かし、2歳戦で大活躍。まだブリーダーズカップ創設前の1980年、過去にセクレタリアトやアフार्ムドといったのちの三冠馬を送り出したことで、名門2歳G1として地位を確立していたローレルフューチュリティ (米G1)へ駒を進めると、2着マッチングギフトに6馬身半差をつける圧勝。デビューから無傷の5連勝でG1ウイナーとなり、一躍翌春の三冠路線の最有力馬として注目された。ところが年が明けると、3歳初戦となった7ハロンの一般戦こそ楽勝したが、距離が9ハロンとなった4月のウッドメモリアルS (米G1)でプレザントコロニーから8馬身差の3着に敗退。続く本番のケンタッキーダービー (米G1)でも15着と惨敗。短距離馬&早熟タイプというイメージを強く与えてしまった。だが種牡馬となると、産駒は必ずしも父譲りとはいえず、1987年のジャパンカップ (G1)をレコードタイムで快勝したルグロリユーのように、3歳夏すぎから頭角を現し、芝2400m以上で活躍した馬も存在。2歳戦限定ということはまったくなく、成長力も豊富で幅広いカテゴリーで代表産駒を輩出し、オールマイティーな種牡馬として重宝された。日本ではやや馴染みが薄く感じるかもしれないが、ヤエノジョオー、タイキハルクなど中央で産駒が13頭も勝利。また母の父としては、中央で49頭も勝ち上がっており、その中にはタイキデューク、タイキシンガー、タイキゼウス、タイキソニック、タイキフェアリー、タイキリパティが含まれており、チームタイキでもお馴染みの血である。



タイキエイワン



6

ヤエノジョオーの08年産

父:ゴールドアリュール 母の父:Cure the Blues

満を持してSS系種牡馬を得てダート路線の最高峰を意識したい。

SIRE 種牡馬

父 ゴールドアリュール Gold Allure



©上田美貴子

ダートで圧倒的な強さを見せた異色のサンデーサイレンス産駒。

42頭のJRA G1ウイナーを擁するサンデーサイレンス産駒の中で、唯一のダートG1ウイナーであるゴールドアリュール。全8勝中、7勝をダート戦で挙げたダート界のスターホースだったが、3歳春には芝の日本ダービー（G1）に挑戦し、勝ったタニノギムレットから0.3秒差の5着に好走しているように、芝でも重賞を狙える資質を持っていたことは間違いないだろう。父として送り出した産駒は、まだ3世代と少ないものの、すでにエスポワールシチーというダートG1馬を輩出し、その他、タケミカヅチやスマートファルコンなど活躍馬が続々登場。また勝馬率も高いことから、関係者の評価が急速に高まっている。

◆競走成績

2～4歳時、中央・地方16戦8勝。フェブラリーS（G1）、東京大賞典（G1）、ジャパントダービー（G1）、ダービーグランプリ（G1）、アンタレスS（G3）

◆種牡馬成績

04年より日本にて供用。07年ファーストクロップ5位

◆代表産駒

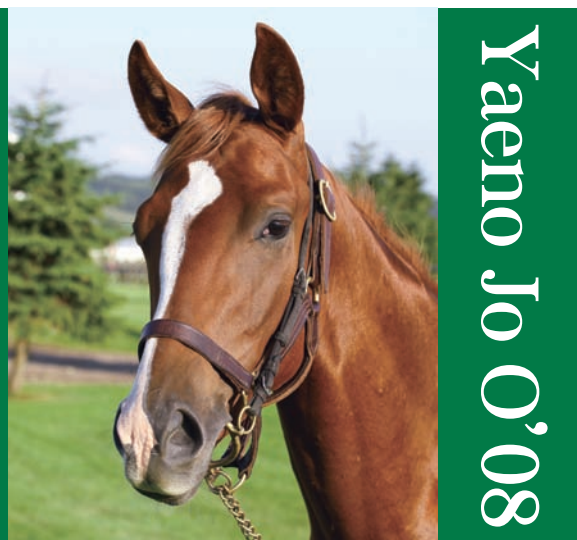
エスポワールシチー:かしわ記念（JPN1）、マーチS（G3）、**タケミカヅチ**:ダービー卿CT（G3）、皐月賞（JPN1）2着、デイリー杯2歳S（JPN2）2着、共同通信杯（JPN3）2着、弥生賞（JPN2）3着、**スマートファルコン**:ブリーダーズGC（JPN2）、浦和記念（JPN2）、白山大賞典（JPN3）、兵庫ゴールドT（JPN3）、佐賀記念（JPN3）、名古屋大賞典（JPN3）、かきつばた記念（JPN3）、さきたま杯（JPN3）、JBCスプリント（JPN1）2着、**トップカミング**:青葉賞（JPN2）3着



スマートファルコン

ビクトリーホースランチ 荻野豊代表のコメント

バランスが良く理想的な伸びのある馬体には好感が持てます。また骨格がとてもしっかりしており、現状ではかなり高いレベルにあると思います。放牧地の動きなどを見ていると、芝での高い適応性をイメージさせてくれる柔らかい動きが非常に目を見張ります。配合時の思惑としては、ダートの中距離路線で活躍し、重賞を狙える存在になってくれればと考えていましたが、父もダービーで5着に健闘し、母も準オープンマイル戦を芝で勝っており、順調に成長を遂げてくれれば、クラシック路線も夢ではないかも知れません。骨量も十分で、これまでも丈夫に育っており、ここまでの初期調教に関しても問題なく進んでいるのは頼もしい限りです。これから負荷のかかる調教に移行していくのが楽しみで仕方ありません。もちろん来年の夏のデビューを目指し、調教師ともコミュニケーションを図っていきます。大袈裟ではなくゴールドアリュールとヤエノジョオーの最高傑作になることを願っています。



Yaeno Jo O'08

全200口◆総額:2,000万円／1口出資金:100,000円

RECOMMENDATION ◆ 血統&配合のポイント

近年に大物馬が目立つヘイルトゥリーズンの4×4。
エスポワールシチーやオーロマイスターの成功も魅力。

母ヤエノジョオーにとって本馬が9頭目の産駒となるが、意外にもサンデーサイレンス系との配合はこれが初めて。さらに、本馬は兄妹たちにはなかったヘイルトゥリーズンの4×4というインブリードが施されているが、実はこれが本馬の大きなセールスポイントだ。ここ近年、このヘイルトゥリーズンの4×4のインブリードを持つ馬が、G1戦線において華々しい活躍を見せていることを皆さんご存じだろうか。スクリーンヒーロー（ジャパンカップ・G1）、サクセスブロッケン（フェブラリーS・G1）、セイウンワンダー（朝日杯FS・Jpn1）、スマイルジャック（日本ダービー・Jpn1-2着）、サクラメガワンダー（宝塚記念・G1-2着）、フローテーション（菊花賞・Jpn1-2着）などがその代表例であり、またその他にも重賞ウイナーがたくさん出ている。しかも本馬と同じゴールドアリュール産駒の活躍馬の中にも、同インブリードを持つ馬が存在。2009年春に交流Jpn1のかしわ記念を勝ったエスポワールシチーと、同年秋にながつきSを勝ち、オープン入りしたオーロマイスターの2頭だ。ゴールドアリュールは芝でもダートでも重賞ウイナーを輩出している優秀な種牡馬で、すでに多くの生産者から大きな人気を得ている。その父の名声を上げた原動力と言っても過言ではないこの2頭と、血統的な類似点が存在するのは大きな魅力だ。将来を楽しみにさせてくれる配合が本馬に施されている。



エスポワールシチー



オーロマイスター

TRAINER PROFILE ◆ 調教師のご紹介

藤岡健一調教師（栗東）

1961年1月1日生 滋賀県出身◆2002年開業 JRA通算143勝（重賞5勝） ※通算成績等は2009年9月27日現在

【主な活躍馬】

ワンカラット:フィリーズレビュー（Jpn2）**タマモサポート**:京都金杯（G3）、ラジオNIKKEI賞（Jpn3）**アズマサンダース**:京都牝馬S（G3）、桜花賞（G1）2着**トップオブワールド**:ユニコーンS（Jpn3）

◆宇田明彦、伊藤雄二、南井克巳調教師の下で、調教助手として活躍し、2001年に調教師免許を取得。翌年11月に開業すると、頭角を現すまでに時間はかからず、2004年春には、桜花賞（Jpn1）でアズマサンダース（2着）とエイシンハーベの2頭出しに成功し、ユニコーンS（Jpn3）ではトップオブワールドで重賞初制覇を達成。その後も着実に勝ち星を積み重ね、昨年2008年には自己最高の年間28勝をマークした。また、ご子息の藤岡佑介騎手と藤岡康太騎手も現在大活躍中。心強いサポートを受け、念願のG1初制覇へ機運が高まっている。



産まれた時からバランスがとても良く、走る馬だと直感したほどです。

お母さんが現役で活躍していた当時のことを覚えています。その最後の仔ということで、ぜひ活躍させて母の名を残したいですね。実は産まれてすぐの時から見せてもらっていて、非常にバランスのいい仔だと強く印象に残っていました。直感でしたが「この仔は走る」と思いました。なんの問題もなく順調に成長してくれていますし、馬格もしっかりしているので、楽しみがどんどん現実的になってきました。今の雰囲気は父のゴールドアリュールに似ている感じでしょうか。芝でも、ダートでも走れると思うし、距離もある程度はこなしてくれるはず。早くからのデビューも意識しつつ、大舞台を目指せるよう頑張っていきます。